



奄美大島と石垣島から得られた初記録のモミジヘビギンポ、 ならびにナナメヘビギンポ *Helcogramma hudsoni* の 日本国内における記録の再検討

出羽優風¹・本村浩之²

Author & Article Info

¹ 鹿児島大学大学院連合農学研究科（鹿児島市）

k2533560@kadai.jp (corresponding author)

² 鹿児島大学総合研究博物館（鹿児島市）

motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp

Received 02 August 2026

Revised 07 August 2026

Accepted 07 August 2026

Published 07 August 2026

DOI 10.34583/ichthy.70.0_10

Yuna Dewa and Hiroyuki Motomura. 2026. First records of *Helcogramma aquila* from Amami-oshima and Ishigaki-jima islands, Japan, and re-assessment of the Japanese records of “Naname-hebigimpo” and *Helcogramma hudsoni* (Tripterygiidae). Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 70: 10–19.

Abstract

During our taxonomic investigation, a total of eight triplefin specimens (19.0–31.6 mm standard length) collected from Amami-oshima island, the Amami Islands, and Ishigaki-jima island, the Yaeyama Islands, Japan were identified as *Helcogramma aquila* Williams and McCormick, 1990 (Tripterygiidae). The presently reported specimens represent the first records of the species from these two islands. In addition, the single male specimen from Amami-oshima island (21.4 mm standard length) represent the northernmost record of the species. A re-assessment of Japanese records of *H. hudsoni* revealed previous records of the species from Japan were based on misidentifications of *H. inclinata*, *H. ishigakiensis*, or *H. nesion*. Consequently, there are currently no known reliable records of *H. hudsoni* from Japanese waters. In addition, we confirmed that the standard Japanese name “Naname-hebigimpo” was most likely originally proposed for *H. inclinata*.

ヘビギンポ科クロマスキ属 *Helcogramma* McCulloch and Waite, 1918 は、側線が1本で、側線鱗列が7–39の有孔鱗からなること、第1背鰭棘数が3、臀鰭棘数が1、および頭部、胸鰭基部、および腹部が無鱗であることから特徴づけられる（Hansen, 1986; Fricke, 1997; Holleman, 2007）。本属はインド・太平洋の広域、および大西洋から43有効種が知られており（Hansen, 1986; Fricke, 1994, 1997; Williams and Howe, 2003; Holleman, 2007; Chiang and Chen, 2012; Tashiro and Motomura, 2014, 2018; Fricke and Erdmann, 2017; Dewa et

al., 2025）、このうち日本国内からは9種が記録されている（林, 2013; Tashiro and Motomura, 2013, 2014; Dewa et al., 2025）。

2014年7月に八重山諸島石垣島から計7個体のモミジヘビギンポ *Helcogramma aquila* Williams and McCormick, 1990 が採集された。さらに、日本国内の標本所蔵機関に保管されているクロマスキ属標本の調査の過程で、萩原（2022）により奄美大島から「ヘビギンポ科の未同定種 Tripterygiidae gen. sp.」として報告されていた1標本（YCM-P 34168）がモミジヘビギンポに再同定された。モミジヘビギンポはこれまでに日本、フィリピン、およびマリアナ諸島（グアム・サイパン）から記録されており（Williams and McCormick, 1990; Fricke, 1997; Myers and Donaldson, 2003; Tashiro and Motomura, 2013）、日本国内では、沖永良部島と沖縄島からのみ報告されている（Tashiro and Motomura, 2013）。そのため、本研究の8標本はモミジヘビギンポの奄美大島と石垣島からの初めての記録となるため、ここに報告する。また、本研究では日本産クロマスキ属魚類のうち、知見の乏しいナナメヘビギンポ *Helcogramma hudsoni* (Jordan and Seale, 1906) について、文献・標本の調査から日本国内における同種の記録の再検討を行った。

材料と方法

計数および計測方法はFricke（1997）にしたがった。鱗の計数および感覚管の観察にはサイアニンブルーを使用した。下顎腹面の感覚管孔の計数方法はHansen（1986）にしたがい、感覚管孔開口数の表記はFricke（1997）（左側＋中央＋右側）にしたがった。胸鰭軟条数は胸鰭最上軟条から計数し、不分枝軟条数＋分枝軟条数＋不分枝軟条数＝胸鰭軟条数の式で表した。計測はデジタルノギスを用いて0.1 mm単位まで行い、標準体長は体長またはSLと表記した。本研究で用いられている研究機関略号はBSKU（高知大学理工学部海洋生物学研究室）、HMNH（庄原市立比和自然科学博物館）、鹿児島大学総合研究博物館（KAUM）、

MTUF（東京海洋大学マリンサイエンスミュージアム）、および YCM（横須賀市自然・人文博物館）である。

Helcogramma aquila Williams and McCormick, 1990

モジヘビギンポ

(Figs. 1–3; Table 1)

標本 8 個体：KAUM-I. 62838, 雄, 体長 23.3 mm, KAUM-I. 62839, 雄, 体長 27.1 mm, KAUM-I. 62840, 雌, 体長 31.6 mm, KAUM-I. 62841, 雄, 体長 25.7 mm, KAUM-I. 62842, 雄, 体長 22.9 mm, KAUM-I. 62843, 雄, 体長 19.3 mm, KAUM-I. 62844, 雌, 体長 19.0 mm, 沖縄県石垣市御神崎 石垣島 (24°27'N, 124°04'E), 水深 1–10 m, 2014 年 7 月 13 日, 吉田朋弘・田代郷国; YCM-P 34168, 雄, 体長 21.4 mm, 鹿児島県大島郡瀬戸内町浜崎 奄美大島, 1994 年 8 月 28 日。

記載 計数形質と各体部の体長に対する割合を Table 1 に示した。下顎の感覚管孔の開口パターンは Fig. 2 のとお

り。体は細長く、後方に向かうにしたがい側扁する。吻部背面の傾斜は急で、吻端は丸みを帯びる。鼻孔は 2 対で、後鼻孔は眼窩前方に位置する。前鼻孔は吻端から後鼻孔にかけての中間部よりやや後方に位置する。前鼻孔は管状。前鼻孔皮弁は鼻管とほぼ同長で、先端がわずかに 2 分枝する。眼上皮弁は単一で細く、先端が尖る。口は後下方に向かってわずかに傾斜する。上顎後端は瞳孔の中央直下に達する。尾柄部は細く、体軸とほぼ平行。体は櫛鱗で覆われるが、第 1 背鰭基底前方を含む頭部、胸鰭基部、および腹部は無鱗。側線は 1 本で、有孔鱗からなる。側線鱗列は鰓蓋上部後端から第 2 背鰭基底後端直下にかけて緩やかに下降したのち、第 3 背鰭第 3–7 軟条基部直下まで体軸に沿ってはしる。第 1 背鰭起部は胸鰭基底下端の直上に位置する。第 1 背鰭は第 1 棘が最長。第 1 背鰭各棘の基部間の距離はほぼ等しい。第 2 背鰭起部は側線第 4 または 5 有孔鱗の直上に位置する。第 3–5 棘が最長で、以後、徐々に短くなる。第 3 背鰭起部は臀鰭第 9 または 10 軟条起部直上に位置し、基底後端は臀鰭基底後端より前方に位置する。第 1 軟条が

Table 1. Counts and measurements of *Helcogramma aquila* from Amami-oshima and Ishigaki-jima islands, Japan. Means in parentheses.

	Amami-oshima island YCM-P 34168 Male	Ishigaki-jima island <i>n</i> = 7 Males and females
Standard length (mm)	21.4	19.0–31.6
Counts		
First dorsal-fin spines	III	III
Second dorsal-fin spines	XIII	XIII or XIV
Third dorsal-fin rays	11	10–12
Pectoral fin rays	i + 8 + vii = 16	i + 7 or 8 + vi–viii = 15–17
Anal fin rays	I, 20	I, 20 or 21
Pored lateral-line scales	24	24–28
Mandibular pore formula	5 + 6 + 5	6–8 + 5 or 6 + 6 or 7
Measurements (% of SL)		
Body depth	24.1	20.5–23.1 (21.7)
Body width	21.1	18.0–22.4 (20.1)
Head length	33.7	30.8–33.6 (32.0)
Snout length	10.2	9.0–10.8 (9.8)
Orbit diameter	12.4	11.2–12.7 (12.1)
Interorbital width	2.6	2.3–2.7 (2.5)
Upper-jaw length	15.8	13.8–16.5 (14.6)
Postorbital length	13.7	11.9–13.3 (12.5)
Pre-1st-dorsal-fin length	30.1	25.4–28.6 (27.1)
Pre-2nd-dorsal-fin length	39.6	35.5–39.9 (37.9)
Pre-3rd-dorsal-fin length	71.8	69.0–72.2 (70.1)
Pre-anal-fin length	53.0	49.2–52.7 (50.3)
Pre-pectoral-fin length	35.1	32.3–35.8 (33.7)
Pre-pelvic-fin length	25.5	21.2–24.2 (22.3)
Caudal peduncle length	10.1	9.0–11.6 (10.7)
Caudal peduncle depth	8.7	7.3–7.9 (7.6)
1st spine length of 1st dorsal fin	11.2	9.3–12.2 (10.7)
2nd spine length of 1st dorsal fin	10.9	8.7–10.7 (9.7)
3rd spine length of 1st dorsal fin	8.9	7.3–9.3 (8.3)
Longest spine length of 2nd dorsal fin	15.4	14.2–15.4 (14.7)
Longest ray length of 3rd dorsal fin	16.7	13.7–16.8 (15.4)
Pectoral fin length	30.9	26.1–29.1 (27.5)
2nd ray length of pelvic fin	23.1	17.4–19.9 (18.8)

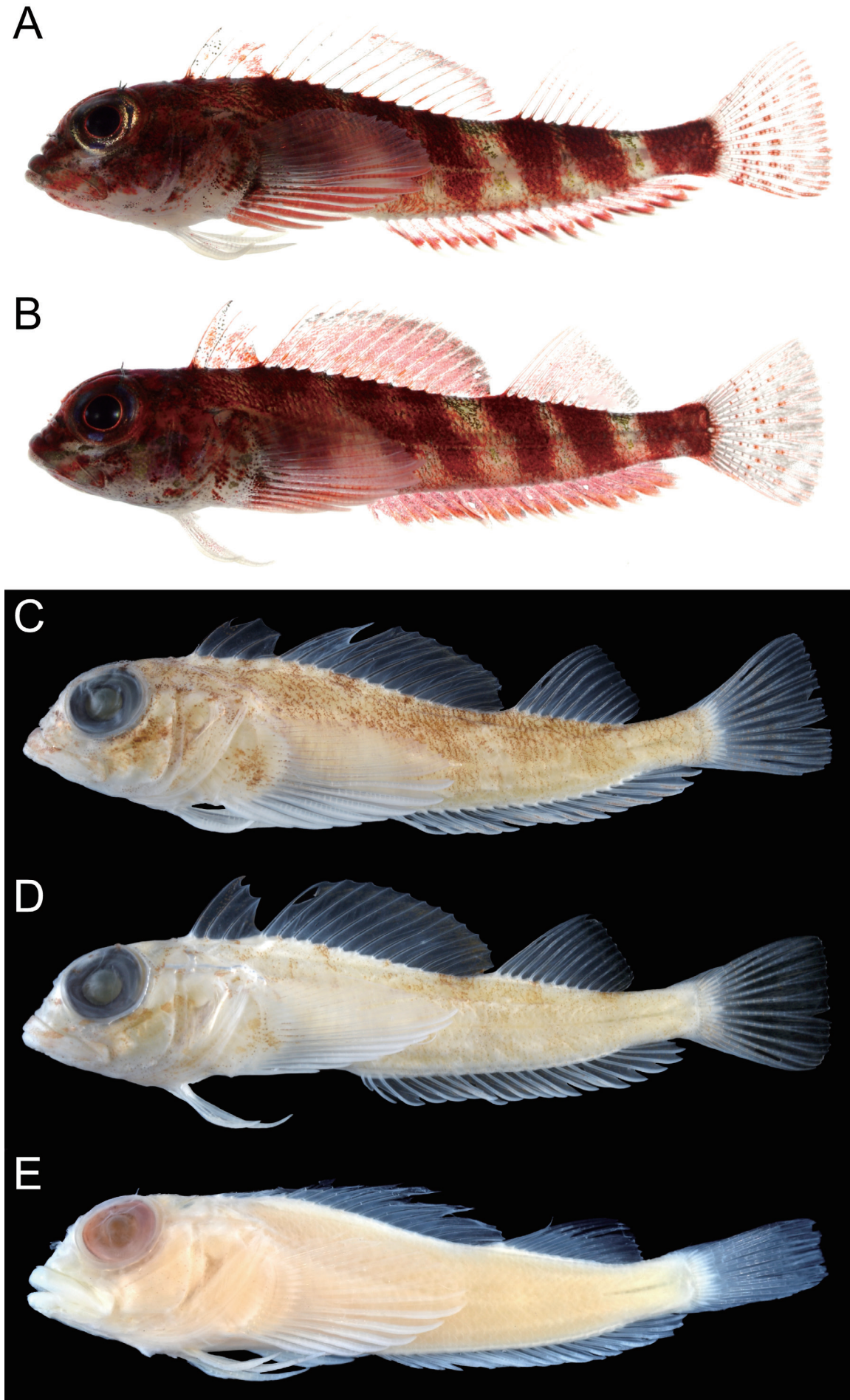


Fig. 1. Fresh (A, B) and preserved (C–E) specimens of *Helcogramma aquila* from Amami-oshima and Ishigaki-jima islands, Japan (A, C: KAUM-I. 62840, female, 31.6 mm SL, Ishigaki-jima island; B, D: KAUM-I. 62841, male, 25.7 mm SL, Ishigaki-jima island; E: YCM-P 34168, male, 21.4 mm SL, Amami-oshima island).

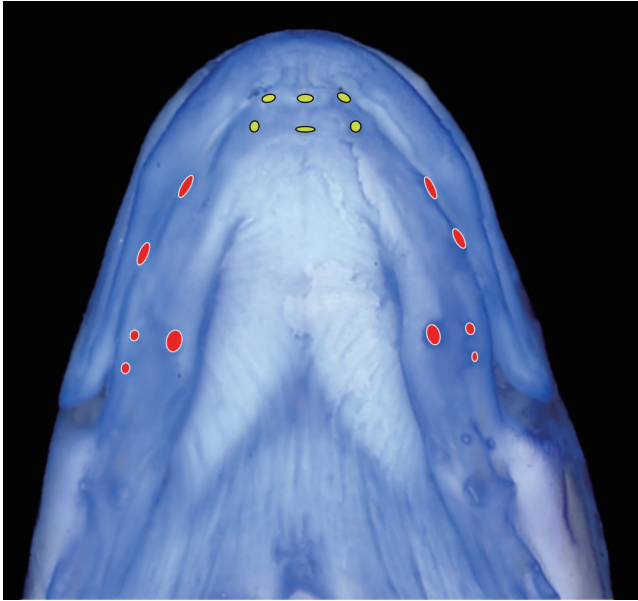


Fig. 2. Photograph of ventral view of head of *Helcogramma aquila* (YCM-P 34168, male, 21.4 mm SL), showing mandibular pores. Yellow and red circles indicate symphyseal, and left and right mandibular pores, respectively.

最長。胸鰭はやや丸く、その後端は第2背鰭の最後から2または3番目の棘条の基部直下（YCM-P 34168では第2背鰭基底後端の直下）に達する。胸鰭基底の上端と下端は、それぞれ第1背鰭第3棘と第2背鰭第1棘基部間の中間付近の直下と、第1背鰭第3棘基部直下に位置する。腹鰭第1、2軟条間の鰭膜は深く切れ込む。第2軟条は短く、その後端は肛門に達しない。臀鰭起部は第2背鰭第8棘基部直下に位置する。尾鰭は截形で、上下端のそれぞれ2本を除き、各軟条は2分枝する。

色彩 雌の生鮮時の色彩（Fig. 1A）— 頭部は暗赤色で、腹面のみ白色。虹彩は紺色。瞳孔は黒色で、赤色の縁どりをもつ。前鼻孔皮弁と眼上皮弁は黒色。下顎の先端から眼の下縁にかけて不明瞭な白色線がはしる。体の地色は白色で、体側に約5本の太いI字型の赤色横帯が斜めに入る。各横帯は背面にかけて黒みがかかる。体後半部の白色域において、体側の鱗は不規則に暗緑色で縁取られ、背面にかけて濃くなる。臀鰭基底付近の鱗は赤色で縁取られる。尾柄は一樣に赤色。腹鰭を除く各鰭の鰭膜は半透明の白色で、各鰭条は赤色。第2背鰭の縁部には淡い赤色斑が不規則に散在する。第3背鰭の各鰭条は先端付近に赤色の縞模様をもつ。胸鰭中央部の軟条の基部は黒色。腹鰭は一樣に白色。臀鰭は白色で、赤色の縁どりをもつ。尾鰭は2本の不明瞭な細い赤色横帯をもつ。

雄の生鮮時の色彩（Fig. 1B）— 概ね雌と似るが、頭部下半部、胸鰭基部、第2背鰭縁部、および尾鰭が黒みがかかる。体後半部の白色域の鱗は背側のものを除き、赤色で縁どられる。第2背鰭は淡い赤色で、縁部のみ黒色。臀鰭は赤色で、縁部のみわずかに濃い赤色。

固定後の色彩（Fig. 1C–E）— 雌雄ともに体は一樣に黄白色で、生鮮時にみられた体や各鰭の赤色または黒色の模様は茶色に変化して残る（YCM-P 34168では体と各鰭は一樣に白色、前鰓蓋と胸鰭基底中央付近にわずかに黒色素胞が散在する；Fig. 1E）。

分布 モミジヘビギンポはこれまで日本、フィリピン、およびマリアナ諸島（グアム・サイパン）から確認されている（Williams and McCormick, 1990; Fricke, 1997; Myers and Donaldson, 2003; Tashiro and Motomura, 2013）。日本国内では、沖永良部島と沖縄島からのみ記録されており（Tashiro and Motomura, 2013）、本研究により本種の奄美大島と石垣島における分布が確認され、奄美大島産の1標本は本種の北限記録となる。

同定 本研究の8標本は、第2背鰭棘数が13または14、側線有孔鱗数が24–28、下顎中央の感覚管孔開口数が5または6、第1背鰭基底前方の項部に被鱗域をもたないこと、および吻部から前鰓蓋後端にかけての頭部下半部と胸鰭基部中央付近に黒色素胞をもつことなどの特徴が、Tashiro and Motomura (2013) が示した *Helcogramma aquila* の特徴と一致したため本種に同定された。なお、本研究のモミジヘビギンポ8個体の眼径（体長の11.2–12.7%）は、Tashiro and Motomura (2013) が示した計測値（9.6–11.1%）より大きかった。このことは、本研究の8個体が Tashiro and Motomura (2013) が用いた10個体（体長34.4–40.8 mm）と比較してやや小型（体長19.0–31.6 mm）であるためだと考えられる。

モミジヘビギンポ *H. aquila* は、成熟した雄が上唇前方から目の下縁を通り前鰓蓋後縁に達する青色縦線（固定時は白色）をもつことから、*Helcogramma fuscipinna* 類似種群に属し（Williams and Howe, 2003）、下顎中央の感覚管孔開口数が通常5以上であることから同類似種群を構成する11種のうち、アヤヘビギンポ *Helcogramma inclinata* (Fowler, 1946) と最もよく似る（Williams and Howe, 2003; Tashiro and Motomura, 2013; 本研究）。しかし、モミジヘビギンポはアヤヘビギンポと比較して、第2背鰭棘数が通常13であること（アヤヘビギンポでは15）、項部が無鱗であること（第1背鰭第1棘基部前方の項部に1–2鱗列をもつ）、婚姻色を呈する雄において体が赤色で、黒色域は吻端から前鰓蓋までの頭部下半部、胸鰭基底中央付近、および垂直鰭の縁部（ただし第1背鰭と尾鰭は全体）に限られること（青色縦線より上の頭部を除く全身と各鰭が黒色）、および雌において体側の横帯は赤色で太く、I字状であること（黒色でやや細く、Y字状；各横帯の上部に白色域がある）（Fig. 3A, C）などの特徴から識別される（Williams and Howe, 2003; Tashiro and Motomura, 2013; 本研究）。

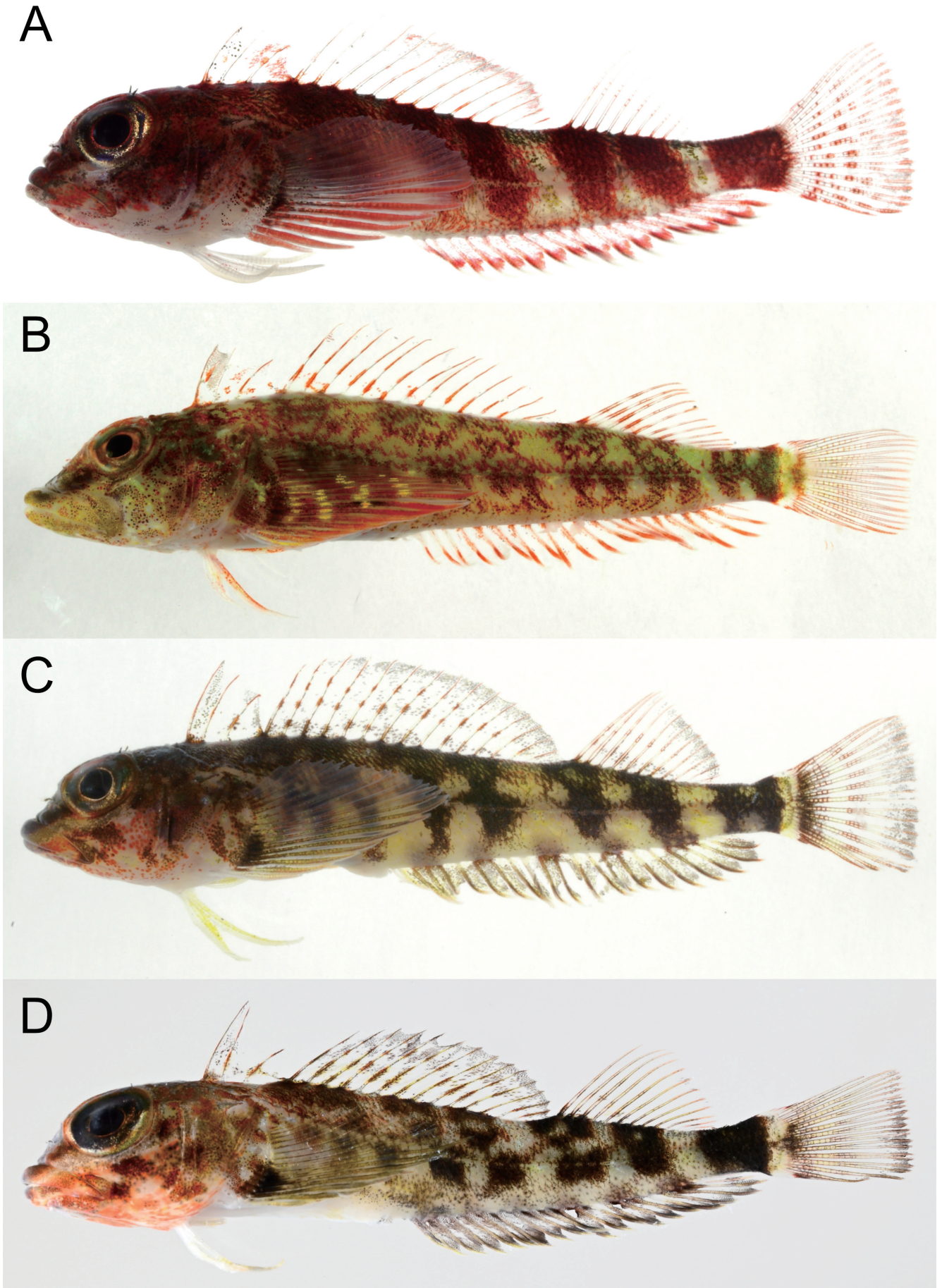


Fig. 3. Comparison of the lateral band shapes in females of *Helcogramma* (A: *H. aquila*, KAUM-I. 62840, 31.6 mm SL, Ishigaki-jima island; B: *H. ishigakiensis*, KAUM-I. 17520, 50.0 mm SL, Amami-oshima island; C: *H. inclinata*, KAUM-I. 17496, 41.9 mm SL, Amami-oshima island; D: *H. nesion*, KAUM-I. 169069, 38.9 mm SL, Hachijo-jima island).

ナナメヘビギンポの再検討

冒頭で述べたとおり、現在確認されているクロマスキ属の43有効種のうち、日本国内からはモミジヘビギンポ *H. aquila*, ナミダクロマスキ *Helcogramma flammata* Dewa, Muto and Motomura, 2025, クロマスキ *Helcogramma fuscipetectoris* (Fowler, 1946), ナナメヘビギンポ *Helcogramma hudsoni* (Jordan and Seale, 1906), アヤヘビギンポ *H. inclinata*, ベニモンヘビギンポ *Helcogramma ishigakiensis* (Aoyagi, 1954), ヨゴレヘビギンポ *Helcogramma nesion* (Williams and Howe, 2003), テングヘビギンポ *Helcogramma rhinoceros* Hansen, 1986, およびタテジマヘビギンポ *Helcogramma striata* Hansen, 1986 の9種が記録されている(林, 2013; Tashiro and Motomura, 2013, 2014; Dewa et al., 2025). Tashiro and Motomura (2014) は *H. ishigakiensis* の再記載を行い、青柳(1954)が提唱した「ベニモンヘビギンポ」を本種の標準和名として適用するとともに、Tashiro and Motomura (2013) によって日本国内から初めて報告されたモミジヘビギンポ *H. aquila* を含む琉球列島産クロマスキ属5種の標徴と分布記録を整理し、これらの検索表を付した。しかし、Tashiro and Motomura (2014) は、吉郷・中村(2008)や林(2013)などにより奄美大島、沖縄諸島、および与那国島から報告されていたナナメヘビギンポ *H. hudsoni* を琉球列島産のクロマスキ属魚類に含めなかった。なお、Fricke (1997) は *H. hudsoni* について、同種はバヌアツからニューカレドニア、フィジー、サモアにかけての南太平洋からのみ確認されており、日本(小笠原諸島)、マーシャル諸島、およびソロモン諸島からの同種の記録は、同属他種 [*Helcogramma* sp. 5 (のちに *H. nesion* として記載; Williams and Howe, 2003), *Helcogramma capidata* Rosenblatt 1960, および *Helcogramma trigloides* (Bleeker, 1858)] の誤同定によるものとしている。

これらのことから、本研究ではナナメヘビギンポの日本国内における記録を整理し、本種の再検討を行った。松原(1955)は *Tripterygion inclinatus* (Fowler, 1946) に対し、「ナナメヘビギンポ」を新称として提唱し、本種が琉球列島に分布するとした。その後、Zama and Yasuda (1979) は、父島産の1標本(MTUF 22852)に基づき、日本国内から初めて *Helcogramma hudsoni* を記録し、同種の和名として新たに「クラカケヘビギンポ」を提唱した。その際、Zama and Yasuda (1979) は原記載で示された形態と色彩の特徴がよく一致するとして、2名義種 *H. hudsoni* (Jordan and Seale, 1906) と *Enneapterygius inclinatus* Fowler, 1946 を同種とみなし、後者を前者の新参異名とした。Zama and Yasuda (1979) の見解にしたがい、吉野(1984)は *H. hudsoni* の和名を「ナナメヘビギンポ(クラカケヘビギンポ)」と表記し、Randall et al. (1997) は Zama and Yasuda (1979) と吉野(1984)、ならびに佐藤(1991)(小笠原諸島産沿岸性魚類の目録:

所蔵機関・登録番号・写真は示されていないものの標本に基づき小笠原諸島母島からナナメヘビギンポ *H. hudsoni* を報告)を引用し、*H. hudsoni* を小笠原諸島から報告した。その後、日本産ヘビギンポ科魚類の総括を行った林(1993)は、ナナメヘビギンポ *H. hudsoni* を日本産の本科魚類に含め、小笠原諸島、奄美大島、沖縄諸島(沖縄島・粟国島)、ソロモン諸島、ニューヘブリデス諸島、ニューカレドニア、フィジー諸島に分布するとした。下條・林(2000)は林(1993)を引用し、本種を日本産ヘビギンポ科魚類の検索表に加えた。以降、林(2000, 2013)など多くの著者により *H. hudsoni* の標準和名として「ナナメヘビギンポ」が用いられている(吉郷・中村, 2003, 2008; 吉郷ほか, 2005; 林, 2013; Koeda et al., 2016; 木村ほか, 2017; 萩原, 2022)。

標準和名「ナナメヘビギンポ」の初出である松原(1955)は、本和名の基準となった標本を示していないが、本研究により松原(1955)が示した本種の形態的特徴は、「尾鰭は黒くない」という1形質を除き、Fowler(1946)による *Enneapterygius inclinatus* (= *Helcogramma inclinatus*) の原記載を直接引用したものであることが確認された。「尾鰭は黒くない」という記述は、松原(1955)が雌個体あるいは尾鰭の色彩が消失した *H. inclinatus* の雄個体を観察したため、または松原(1955)の検索表においてナナメヘビギンポと最も近似するとされるヒメギンポ *Springerichthys bapturnus* (Jordan and Snyder, 1902) (原文では *Tripterygion bapturnum*) と識別するための形質として加えられたと考えられる。

また、本研究では Zama and Yasuda (1979) により *H. hudsoni* として父島から報告され、和名「クラカケヘビギンポ」[吉野(1984)により「ナナメヘビギンポ」の新参異名とされた]の基準となった1標本(MTUF 22852, 雌, 体長 28.0 mm; Fig. 4)を調査した。本標本は第2背鰭棘数が14, 第3背鰭軟条数が11で最後軟条が分枝すること、側線が1本で、28の有孔鱗からなること、および下顎中央の感覚管開口数が2(開口式 6 + 2 + 6)などの特徴が、Williams and Howe (2003) が示したヨゴレヘビギンポ *H. nesion* の特徴と一致したため、本種に再同定された。さらに、吉野(1984)の「ナナメヘビギンポ(クラカケヘビギンポ) *Helcogramma hudsoni*」について、示された記載や図から種同定に必要な識別的特徴を読み取ることは難しいものの、本種の雄の「体色が黒っぽく、頬と垂直鰭は特に黒い」(吉野, 1984)という特徴は、むしろアヤヘビギンポの雄のそれとよく一致する [*H. hudsoni* の雄では頭部下半部に黒色域があり、体側に5本の横帯が斜めに入る(Fricke, 1997)]。吉野(1984)と同様に *H. hudsoni* の標準和名として「ナナメヘビギンポ」を適用した林(1993)は、本種の雌雄のスケッチを示すとともに、側線が1本で26–31の有孔鱗からなり、胸鰭上半分の分枝軟条数が7で



Fig. 4. Preserved specimen of *Helcogramma nesion* (MTUF 22852, female, 28.0 mm SL, Chichi-jima island, Ogasawara Islands), previously identified as *H. hudsoni* by Zama and Yasuda (1979).

あること、下顎側部の感覚管の開口数が2であること、頭長は眼径の約3.2倍、下顎が突出しないこと、第1背鰭第3棘と第2背鰭第1棘の間が狭く、鰭膜の切れ込みが深いこと、および体側に不規則な鞍掛状の斜帯や斑紋があることなどの特徴により本種を定義した。改訂版の林 (2000) において、使用されている図は林 (1993) と同じであるものの、下顎の感覚管孔と側線に関する記載が修正された(下顎中央の感覚管孔数が1、側線有孔鱗が第3背鰭後方まで達する；林, 2000)。この修正は下條・林 (2000) の日本産ヘビギンボ科魚類の検索表にしたがったものであると考えられる。本研究により再検討を行った結果、林 (1993, 2000) と下條・林 (2000) のナナメヘビギンボは以下の特徴をもつことから *H. hudsoni* と異なっていた：下顎中央の感覚管孔開口数が1 (*H. hudsoni* では3)；側線鱗数が26–31と多く、側線鱗列の後端は第3背鰭基底中央直下付近に達する(21–25、第3背鰭起部直下付近に達する)；第2背鰭鰭膜は下半部が淡色で、上半部が黒色(縁部のみ黒色で2本の斜帯が入る) (Fricke, 1997；本研究)。さらに、前述の特徴は Tashiro and Motomura (2014) で示されたベニモンヘビギンボ *H. ishigakiensis* のものと一致するため、林 (1993, 2000) と下條・林 (2000) のナナメヘビギンボは *H. ishigakiensis* だと考えられる。

ここからは、林 (2000) 以降の日本国内におけるナナメヘビギンボならびに *H. hudsoni* の記録のうち、記載または図、ならびに証拠標本に基づき種の再同定が可能であるもの [林 (2000) と同じ内容が記載されている林 (2013) を除く] について、本研究において整理した結果を詳述する。吉郷・中村 (2003, 2008) と吉郷ほか (2005) は庄原市立比和自然科学博物館の魚類収蔵標本目録において、沖縄諸島(沖縄島、瀬底島、および奥武島)と与那国島から得られた計15個体のナナメヘビギンボ *H. hudsoni* (HMNH-P 1933, 4116, 4246, 4247, 4410, 7189, 8503, 9149) を示した。本研究においてこれらの標本を再同定した結果、15個体のうち5個体は、第2背鰭棘数が14、側線有孔鱗数が33または34、下顎中央の感覚管孔開口数が1

(開口式 $4 + 1 + 4$)、および第1背鰭基底前方の項部が被鱗しないなどの特徴から Tashiro and Motomura (2014) が詳述したベニモンヘビギンボ *H. ishigakiensis* に、10個体は第2背鰭棘数が15、側線有孔鱗数が26–28、下顎中央の感覚管孔開口数が7 (開口式 $8-10 + 7 + 8-10$)、および第1背鰭第1棘基部前方の項部に1–2鱗列をもつなどの特徴から Williams and Howe (2003) が再記載したアヤヘビギンボ *H. inclinata* に再同定された (Fig. 5)。なお、与那国島産のアヤヘビギンボ2標本 (HMNH-P 7189, 2個体、体長30.9–33.2 mm) は、同島の魚類相をまとめた Koeda et al. (2016) によってもナナメヘビギンボとして用いられている (fig. 375)。木村ほか (2017) は1標本 (BSKU 98309, 体長23.8 mm) に基づき、口永良部島からナナメヘビギンボ *H. hudsoni* を記録したが、後に同記録はアヤヘビギンボ *H. inclinata* の誤同定によるものであることが正誤表 (URL) にて示されている。なお、同報告においてナナメヘビギンボ (BSKU 98309) として掲載されている標本写真は、カタボシサンカクハゼ *Fusigobius humeralis* (Randall, 2001) (BSKU 98308, 体長26.9 mm) のものだと考えられ、同じ標本写真が木村ほか (2017) の160ページ「⑦カタボシサンカクハゼ」の項に掲載されている。萩原 (2022) は横須賀市自然・人文博物館に所蔵されている奄美群島産魚類目録において、ナナメヘビギンボ *H. hudsoni* の2標本 (YCM-P 29133, 41282) を示した。本研究において1標本 (YCM-P 29133, 雄, 体長27.9 mm; Fig. 5D) を調査したところ (YCM-P 41282 は所在不明)、本標本の第2背鰭棘数が14、側線有孔鱗数が32、下顎中央の感覚管孔開口数が1 (開口式 $4 + 1 + 4$)、前鼻孔皮弁が不分枝であること、および第1背鰭基底前方の項部は被鱗しないことなどの特徴が、Tashiro and Motomura (2014) が示したベニモンヘビギンボ *H. ishigakiensis* の特徴とよく一致し、本種に再同定された。上記の結果から、日本国内から報告されたナナメヘビギンボ、または *H. hudsoni* は、ベニモンヘビギンボ *H. ishigakiensis*、アヤヘビギンボ *H. inclinata*、およびヨゴレヘビギンボ *H. nesion* の3種が混同されたものである

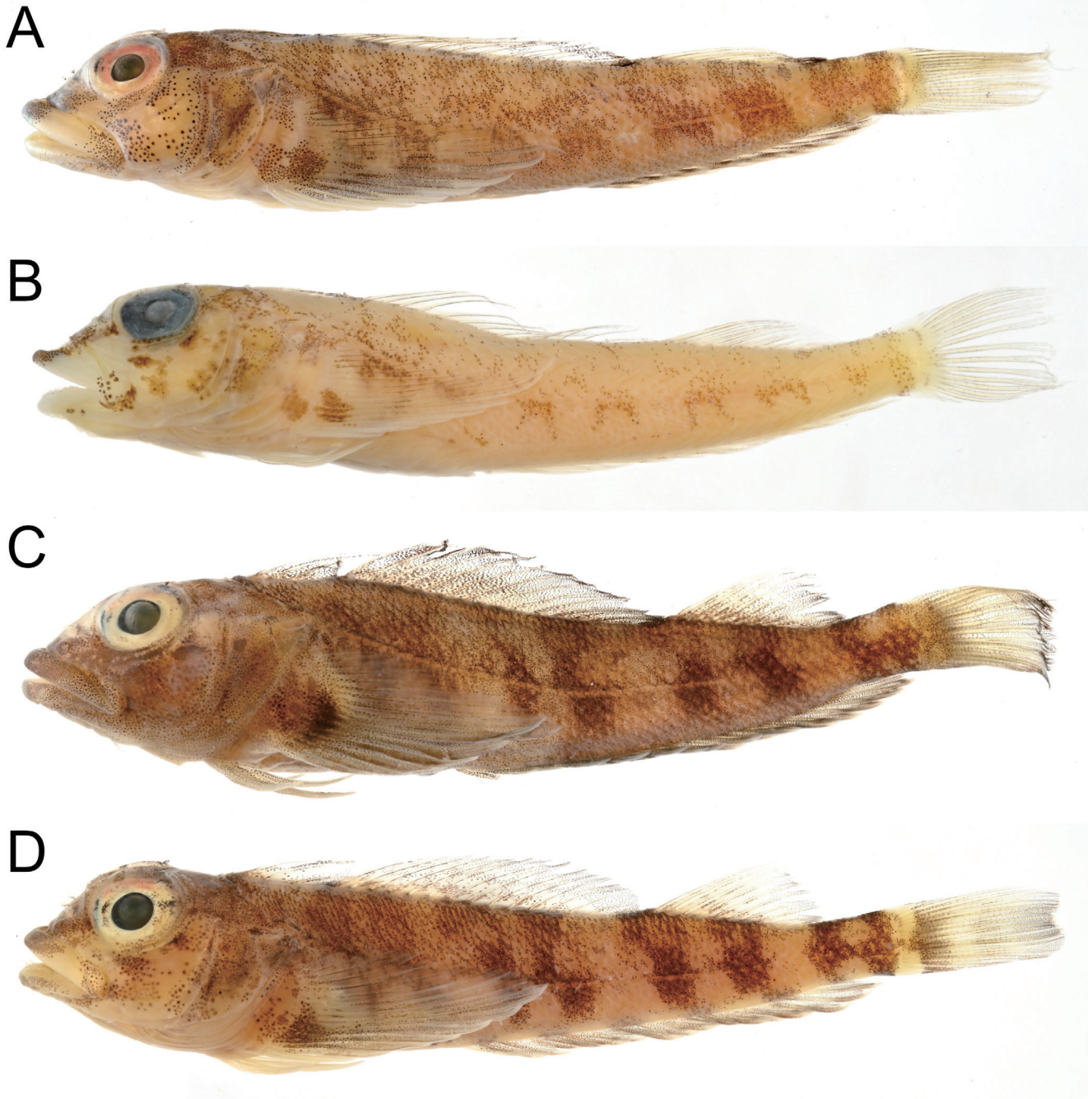


Fig. 5. Photographs of specimens of *Helcogramma* (A, B: *H. ishigakiensis*; C, D: *H. inclinata*) from the Okinawa Islands, previously reported as *H. hudsoni* from Japanese waters (A: HMNH-P 4247, male, 42.0 mm SL, Okinawa-jima island; B: HMNH-P 1933, female, 32.5 mm SL, Okinawa-jima island; C: HMNH-P 9149, male, 40.9 mm SL, Oh-jima island; D: HMNH-P 4410, female, 40.6 mm SL, Okinawa-jima island).

ことが確認された。なお、これらの3種の雌は共通して体側に横帯状の模様をもつが、その形状はわずかに異なっている。生鮮時において、ベニモンヘビギンポは体側に輪郭が不明瞭な6本の赤色横帯をもつ (Tashiro and Motomura, 2014) (Fig. 3B)。一方、ヨゴレヘビギンポの体側の横帯は黒色かつY字状で、「同定」の項で述べたアヤヘビギンポの横帯と似るが、それぞれの横帯が体側中央付近で背腹方向にわずかに分断されることから異なっている (本研究; Fig. 3D)。

本研究により、従来 *H. hudsoni* の標準和名として用いられてきた「ナナメヘビギンポ」は *H. inclinata* に対して

提唱されており、日本魚類学会 (2025) に基づき原則標準和名の起点となる林 (2000) において、「ナナメヘビギンポ」は *H. ishigakiensis* に対して用いられていることが確認された。しかし *H. inclinata* と *H. ishigakiensis* に適用すべき標準和名についてはすでに本村ほか (2006) と田代・本村 (2015) によって詳細に議論されており、改めて「ナナメヘビギンポ」を両種のいずれかに適用することは標準和名の安定性の観点から望ましくない。また、日本国内における過去の *H. hudsoni* の記録はいずれも同属他種 (琉球列島におけるものは *H. inclinata* または *H. ishigakiensis*, 小笠原諸島におけるものは *H. nesion*) の誤同定に基づくもの

であることが明らかとなった。したがって、これまでに日本国内から記録されたクロマスキ属の総種数は *H. hudsoni* を除いた 8 種となる。

比較標本 ベニモンヘビギンポ：HMNH-P 1933, 5 個体のうちの 2 個体 (雌), 体長 31.4–32.5 mm, 沖縄県国頭郡国頭村赤崎海岸 沖縄島；HMNH-P 4116, 雄, 体長 47.0 mm, 沖縄県国頭郡本部町瀬底 瀬底島；HMNH-P 4246, 雄, 体長 44.7 mm, HMNH-P 4247, 雄, 体長 42.0 mm, 沖縄県国頭郡恩納村万座毛地先 沖縄島；KAUM-I. 17520, 雌, 体長 50.0 mm, 鹿児島県奄美市笠利町土浜 奄美大島 (28°24'34"N, 129°40'31"E), 水深 0.5–1 m, 2009 年 3 月 28 日, 目黒昌利・吉田朋弘；YCM-P 29133, 雄, 体長 27.9 mm, 鹿児島県瀬戸内町浜崎 奄美大島, 1993 年 8 月 31 日。

アヤヘビギンポ：HMNH-P 1933, 5 個体のうちの 3 個体 (雌), 体長 29.7–31.4 mm, 沖縄県国頭郡国頭村赤崎海岸 沖縄島；HMNH-P 4410, 3 個体 (雌), 体長 36.7–40.6 mm, 沖縄県島尻郡八重瀬町安里ギーザバンド 沖縄島；HMNH-P 7189, 2 個体 (雄), 体長 30.9–33.2 mm, 沖縄県八重山郡与那国町東崎 与那国島；HMNH-P 8503, 雄, 体長 34.6 mm, 沖縄県国頭郡国頭村辺土名辺土名海岸 沖縄島；HMNH-P 9149, 雄, 体長 40.9 mm, 沖縄県南城市奥武 奥武島；KAUM-I. 17496, 雌, 体長 41.9 mm, 鹿児島県奄美市笠利町土浜 奄美大島 (28°24'34"N, 129°40'31"E), 水深 0.5–1 m, 2009 年 3 月 27 日, 目黒昌利・吉田朋弘。

ヨゴレヘビギンポ：KAUM-I. 169069, 雌, 体長 38.9 mm, 東京都八丈町旧八重根港 八丈島, (33°05'59"N, 139°46'15"E), 水深 2–3 m, 2022 年 6 月 9 日, 出羽優風・佐藤智水；MTUF 22852, 雌, 体長 28.0 mm, 小笠原諸島父島 境浦, 1977 年 7 月 30 日。

謝 辞

庄原市立比和自然科学博物館の森繁光晴氏, 今西隆行氏, および吉郷英範氏, 東京海洋大学の茂木正人氏と学生の皆さま, 横須賀市自然・人文博物館の萩原清司氏と中島広喜氏には標本の観察・借用にあたり便宜を図っていただいた。神奈川県立生命の星・地球博物館の和田英敏氏には文献の調査にご協力いただいた。レグルスダイビングの加藤昌一氏, 京都大学総合博物館の藤原恭司氏, 鹿児島大学大学院連合農学研究科の佐藤智水氏には八丈島での標本採集にご協力いただいた。鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室の学生やボランティアの皆さまには, 標本の作製および登録作業においてご協力いただいた。Ichthy 担当編集委員の外山太一郎氏と公益財団法人海洋生物環境研究所の田代郷国氏には原稿に対して適切な助言をいただいた。以上の方々に深く感謝する。本研究は鹿児島大学総

合研究博物館の「鹿児島・琉球列島の魚類多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」, JSPS 研究奨励費 (DC2: 25KJ1986), JSPS 科研費 (20H03311・21H03651・23K20304・24K02087), JSPS 研究拠点形成事業—B アジア・アフリカ学術基盤形成型 (CREPSUM JPJSCCB20200009), 文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」および鹿児島大学のミッション実現戦略分事業 (奄美群島を中心とした「生物と文化の多様性保全」と「地方創生」の革新的融合モデル) の援助を受けた。

引用文献

- 青柳兵司. 1954. 琉球列島産ギンポ科魚類の新・珍種追記. 動物学雑誌, 63: 239–242.
- Chiang, M.-C. and I.-S. Chen. 2012. A new species of the genus *Helcogramma* (Blennioformes, Tripterygiidae) from Taiwan. Zookeys, 216: 57–72.
- Dewa, Y., N. Muto and H. Motomura. 2025. *Helcogramma flammata*, a new species of triplefin (Blennioformes: Tripterygiidae) from southern Japan. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-025-01035-w.
- Fowler, H. W. 1946. A collection of fishes obtained in the Riu Kiu Islands by Captain Ernest R. Tinkham, A.U.S. Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia, 98: 123–218.
- Fricke, R. 1994. Tripterygiid fishes of Australia, New Zealand and the south-west Pacific Ocean (Teleostei). Koeltz Scientific Books, Königstein. ix + 585 pp.
- Fricke, R. 1997. Tripterygiid fishes of the western and central Pacific (Teleostei). Koeltz Scientific Books, Königstein. ix + 607 pp.
- Fricke, R. and M. V. Erdmann. 2017. *Helcogramma atauriensis*, a new species of triplefin from Atauro Island, Timor-Leste, eastern Indian Ocean (Teleostei: Tripterygiidae). Journal of the Ocean Science Foundation, 26: 34–45.
- 萩原清司. 2022. 横須賀市自然・人文博物館所蔵魚類資料目録 (V) 横須賀市自然・人文博物館及び相模湾海洋生物研究会収集 奄美群島産魚類資料目録. 横須賀市博資料集, 46: 1–127, 4 pls.
- Hansen, P. E. H. 1986. Revision of the tripterygiid fish genus *Helcogramma*, including descriptions of four new species. Bulletin of Marine Science, 38: 313–354.
- 林 公義. 1993. ヘビギンポ科, pp. 944–948, 1351. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 東海大学出版会, 東京.
- 林 公義. 2000. ヘビギンポ科, pp. 1077–1086, 1600–1601. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第 2 版. 東海大学出版会, 東京.
- 林 公義. 2013. ヘビギンポ科, pp. 1280–1290, 2097–2099. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第 3 版. 東海大学出版会, 秦野.
- Holleman, W. 2007. Fishes of the genus *Helcogramma* (Blennioidei: Tripterygiidae) in the Western Indian Ocean, including Sri Lanka, with descriptions of four new species. Smithiana Bulletin, 7: 51–81.
- 木村祐貴・日比野友亮・三木涼平・峯 健・小枝圭太. 2017. 緑の火山島 口永良部島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 200 pp.
- Koeda, K., Y. Hibino, T. Yoshida, Y. Kimura, R. Miki, T. Kunishima, D. Sasaki, T. Furukawa, M. Sakurai, K. Eguchi, H. Suzuki, T. Inaba, T. Uejo, S. Tanaka, M. Fujisawa, H. Wada and T. Uchiyama. 2016. Annotated checklist of fishes of Yonaguni-jima island, the westernmost island in Japan. Kagoshima University Museum, Kagoshima. v + 120 pp.
- 松原喜代松. 1955. 魚類の形態と検索 I. 石崎書店, 東京. xiv + 791 pp.
- 本村浩之・原崎 森・瀬能 宏. 2006. ヘビギンポ科クロマスキ属 2 種 *Helcogramma inclinata* と *H. nesion* の標準和名と学名, および

- 前者の北限記録の更新と標徴に関する新知見. 魚類学雑誌, 53: 106–109.
- Myers, R. F. and T. J. Donaldson. 2003. The fishes of the Mariana Islands. *Micronesica*, 35–36: 594–648.
- 日本魚類学会. 2025. 魚類の標準和名の命名ガイドライン. [URL](#)
- Randall, J. E., H. Ida, K. Kato, R. L. Pyle and J. L. Earle. 1997. Annotated checklist of the inshore fishes of the Ogasawara Islands. *National Science Museum Monographs*, 11: 1–74.
- 佐藤寅夫. 1991. 小笠原諸島の魚類相の現況, pp. 309–326. 東京都立大学自然環境現況調査班 (編) 第二次小笠原諸島自然環境現況調査報告書. 東京都立大学, 東京.
- 下條敦夫・林 公義. 2000. 日本産ヘビギンボ科魚類の7未記録種. 横須賀市博物館研究報告 (自然科学), 47: 39–58.
- Tashiro, S. and H. Motomura. 2013. First records of the Blacktail Triplefin (Perciformes: Tripterygiidae), *Helcogramma aquila*, from Japan, with notes on its fresh coloration. *Species Diversity*, 18: 9–14.
- Tashiro, S. and H. Motomura. 2014. The validity of *Helcogramma ishigakiensis* (Aoyagi, 1954) and a synopsis of species of *Helcogramma* from the Ryukyu Islands, southern Japan (Perciformes: Tripterygiidae). *Species Diversity*, 19: 97–110.
- 田代郷国・本村浩之. 2015. ヘビギンボ科クロマスキ属 *Helcogramma ishigakiensis* (Aoyagi, 1954) に適用すべき標準和名. *Nature of Kagoshima*, 41: 307–309.
- Tashiro, S. and H. Motomura. 2018. *Helcogramma melanolancea*, a new triplefin (Perciformes: Tripterygiidae) from Bali, Indonesia. *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-018-0660-5 (22 Sept. 2018), 66: 104–113 (25 Jan. 2019).
- Williams, J. T. and J. C. Howe. 2003. Seven new species of the triplefin genus *Helcogramma* (Tripterygiidae) from the Indo-Pacific. *Aqua, Journal of Ichthyology and Aquatic Biology*, 7: 151–176.
- Williams, J. T. and C. J. McCormick. 1990. Two new species of the triplefin fish genus *Helcogramma* (Tripterygiidae) from the western Pacific Ocean. *Copeia*, 1990: 1020–1030.
- 吉郷英範・市川真幸・中村慎吾. 2005. 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録 (IV). 比和町立自然科学博物館標本資料報告, 5: 1–51, pl. 1.
- 吉郷英範・中村慎吾. 2003. 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録 (III). 比和町立自然科学博物館標本資料報告, 4: 31–75, pl. 1.
- 吉郷英範・中村慎吾. 2008. 庄原市立比和自然科学博物館魚類収蔵標本総合目録. 庄原市立比和自然科学博物館標本資料報告, 8: 1–111, pl. 1.
- 吉野哲夫. 1984. ヘビギンボ科, p. 281, pls. 264–B–F, 356–G–K. 益田一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編) 日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会, 東京.
- Zama, A. and F. Yasuda. 1979. An annotated list of fishes from the Ogasawara Islands-supplement I, with zoogeographical notes on the fish fauna. *Journal of the Tokyo University of Fisheries*, 65: 139–163, pls. 1–3.